

令和5年度 県立内原特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆安全安心な環境のもと、楽しく元気に学べる学校 ◆児童生徒・教職員・保護者が「夢」をもち、共に歩む学校 ◆教職員が自信と誇りをもって、勤務できる学校 ◆保護者・地域・関係機関に開かれた学校			
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
○日々の授業実践において、ICT を効果的に活用し児童生徒の興味関心を引き出すことができた。 ○S－M社会生活能力検査の結果から実態を把握し、コミュニケーション能力の向上をねらいとした授業づくりに努めた。 ○高等部において、卒業後の生活を見据え校内実習や現場実習を実施し、生徒たちが将来を考える機会を設定することができた。 ○小学部や中学部では、地域資源を活用した職場見学や体験を行い、社会の中で働く、生活することについて考えることができた。 ○防災教育について、外部専門家と協力して児童生徒の主体的な学習となるよう継続して取り組んでいく。 ○摂食指導について専門家の助言指導を取り入れながらより良い食習慣の形成のための支援に継続して取り組めるように努める。 ○ヒヤリハット事案について職員間の情報共有、学級学年での再発防止策の検討により、未然防止に努めることができた。 ○年間4回の避難訓練と地域・関係機関と連携し、危機管理体制の改善、充実に努めることができた。 ○毎月学年で事例検討会を実施、コンプライアンス全体研修、意識調査を全職員に実施して職員の意識向上を図ることができた。 ○定時退勤日を毎週金曜に設定した。水曜日は会議を設定しない日とし、連絡事項はネットワークを活用するなど、効率的に業務に取り組める環境を整えることができた。		1 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	① 「やってみたい」「できた」「わかった」「もっとやりたい」を実感できる授業を実践する。 ② 的確なアセスメントの実施と活用を図る。 ③ 可能性を引き出すICT機器の有効活用を推進する。 ④ 専門家と連携し、自立活動の視点を踏まえて授業を展開する。 ⑤ 新学習指導要領の目標・内容に基づいた指導の充実に図る。	
		2 安全安心な教育環境の整備と、心身ともに健康な児童生徒の育成	① 教育環境を整備し、安心して学べる学校づくりを目指す。 ② いじめ・不登校・虐待等への予防的取組と組織的対応の充実に図る。 ③ 児童生徒が主体的に取り組む健康教育と防災教育の推進を図る。 ④ 特性に応じた摂食指導、食物アレルギー等の適切な対応を図る。 ⑤ ヒヤリハット事例の検証と未然防止を徹底する。 ⑥ 様々な災害を想定した危機管理体制の強化を図る。	
		3 自立と社会参加に向けた教育活動の充実	① 学部の系統性を踏まえたキャリア教育の工夫・改善を図る。 ② 進路の選択肢を広げる体験的な学習の充実と実践を図る。 ③ 地域資源を活用した体験活動の充実に図る。 (校外歩行、仕事しらべ、職業見学、職場体験、地域貢献など) ④ 進路相談を充実させ、一人一人に応じた適切な進路指導を行う。	
		4 地域連携とセンター的機能の充実	① 保護者及び地域の関係機関との連携を強化する。 ② センターの機能を発揮した地域支援、相談業務等の充実に図る。 ③ 早期支援、就学指導の充実に図る。 ④ 地域交流・学校間交流・居住地校交流等の共同学習を推進する。 ⑤ 教育活動を積極的に発信する。 水戸飯富特別支援学校との連携・協働を図る。	
		5 信頼される学校づくり	① 服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成を図る。 ② 風通しの良い職場の醸成と、適切なワークライフバランスに向けた働き方改革を推進する。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価		成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	○高等部教育の充実	① 進路指導主事との連携 ② 地域資源の有効活用 ③ 教育課程の学期ごとの見直し	3 1－④⑤			
教職員の 育成及び 指導・監督	○若手教員の育成 ○ミドルリーダーの育成 と指導力の向上	① 校内若手研修での指導支援 ② 日常的な見守りと日々の授業観察及び支援 ③ 休憩時間の確保と勤務時間の徹底	1 5			
対外活動	○専門家や関係機関との 連携強化 ○地域支援・相談業務の 充実	① 医療相談への参加、情報の共有 ② 関係機関との支援会議の開催 ③ 児童生徒・保護者・教職員のニーズに基づき実施	1－④ 4			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない